

# CASBEE あいち

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岡谷特殊鋼センター	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県丹羽郡大口町萩島一丁目 42-1,42-3,45-1,56,169-1	構造	S造
用途地域	地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	653 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年4月14日
敷地面積	20,212 m <sup>2</sup>	作成者	八幡 樹幸
建築面積	6,718 m <sup>2</sup>	確認日	2021年4月15日
延床面積	7,054 m <sup>2</sup>	確認者	小西 秀登

**2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)**

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★

**2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2排出量の目安を示したもので

**2-3 大項目の評価(レーダーチャート)**

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

Q 環境品質	Q のスコア = 2.4
Q1 室内環境	Q1のスコア = 2.8
Q2 サービス性能	Q2のスコア = 2.8
Q3 室外環境 (敷地内)	Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性	LR のスコア = 3.5
LR1 エネルギー	LR1のスコア = 3.9
LR2 資源・マテリアル	LR2のスコア = 3.2
LR3 敷地外環境	LR3のスコア = 3.2

**3 重点項目**

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.7	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

みんなの環境活動を応援している  
オカモト キッズ

スコアシート 実施設計段階		独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
配慮項目	評価点			評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>							
<b>Q1 室内環境</b>							
1 音環境							
1.1 室内騒音レベル							
1.2 遮音							
1 開口部遮音性能	0.1	3.2	0.15				2.4
2 界壁遮音性能	3.0	3.0	0.40				2.8
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	0.4	3.0	0.40				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音			壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している	3.0	3.0	0.20	3.2
2 溫熱環境							
2.1 室温制御							
1 室温	0.3	2.0	0.35				2.0
2 外皮性能	0.5	3.0	0.50				
3 ゾーン別制御性	3.0	3.0	0.38				
2.2 湿度制御							
2.3 空調方式							
3 光・視環境							
3.1 昼光利用							
1 昼光率	0.2	3.3	0.25				3.3
2 方位別開口	0.3	4.2	0.30				
3 昼光利用設備	3.0	5.0	0.60				
3.2 グレア対策							
1 昼光制御	3.0	3.0	0.40				
3.3 照度							
3.4 照明制御	0.3	3.0	0.30				
4 空気質環境							
4.1 発生源対策							
1 化学汚染物質	0.2	3.3	0.25				3.3
4.2 換気							
1 換気量	0.5	4.0	0.50				
2 自然換気性能	3.0	4.0	1.00				
3 取り入れ外気への配慮	0.3	3.6	0.30				
4.3 運用管理							
1 CO <sub>2</sub> の監視	3.0	1.0	0.20				
2 喫煙の制御	3.0	-	-				
Q2 サービス性能							
1 機能性							
1.1 機能性・使いやすさ							
1 広さ・収納性	0.4	2.4	0.40				2.4
2 高度情報通信設備対応	3.0	1.0	0.50				
3 バリアフリー計画	3.0	2.0	0.50				
1.2 心理性・快適性							
1 広さ感・景観 (天井高)	0.3	3.0	0.30				
2 リフレッシュスペース	3.0	3.0	0.33				
3 内装計画	3.0	5.0	0.33				
1.3 維持管理							
1 維持管理に配慮した設計	3.0	1.0	0.33				
2 維持管理用機能の確保	0.3	3.0	0.30				
2 耐用性・信頼性							
2.1 耐震・免震・制振							
1 耐震性(建物のこわねにくさ)	0.3	3.0	0.48				
2 免震・制震・制振性能	3.0	3.0	0.80				
2.2 部品・部材の耐用年数							
1 車体材料の耐用年数	0.3	2.9	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	2.9	0.33				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	3.0	0.23				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	2.0	0.23				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	3.0	3.0	0.09				
6 主要設備機器の更新必要間隔	3.0	3.0	0.08				
2.4 信頼性							
1 空調・換気設備	0.1	3.0	4.0	0.15			
2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	0.20				
3 電気設備	3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法	3.0	4.0	0.20				
5 通信・情報設備	3.0	2.0	0.20				

3 対応性・更新性	②	[壁長さ比率] <0.1。	0.2	3.2	0.29	-	-	-	3.2
			0.3	3.8	0.31	-	-	-	
			-	3.0	0.60	-	-	-	
			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
			-	3.0	0.17	-	-	-	
			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
			-	-	0.39	-	-	-	1.8
			-	-	1.0	0.30	-	-	1.0
			-	-	2.0	0.40	-	-	2.0
			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
			-	-	2.0	0.50	-	-	
			-	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
			-	-	0.40	-	-	-	3.9
			BPIm = 0.67	3.0	5.0	0.21	-	-	5.0
			-	3.0	3.0	0.11	-	-	3.0
			BEIm = 0.69	3.0	4.1	0.48	-	-	4.1
			-	0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
			集合住宅以外の評価	1.0	3.0	1.00	-	-	
			4.1 モニタリング	3.0	3.0	0.50	-	-	
			4.2 運用管理体制	3.0	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.2
			1 水資源保護	0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
			1.1 節水	3.0	4.0	0.40	-	-	
			1.2 雨水利用・雑排水等の利用	0.6	3.0	0.60	-	-	
			1 雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	
			2 雜排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	
			2 非再生性資源の使用量削減	0.6	3.1	0.63	-	-	3.1
			2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.07	-	-	
			2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.24	-	-	
LR3 敷地外環境			2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
			2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
			2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.05	-	-	
			2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.24	-	-	
			3 汚染物質含有材料の使用回避	0.2	3.6	0.22	-	-	3.6
			3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0	3.0	0.32	-	-	
			3.2 フロン・ハロンの回避	0.6	4.0	0.68	-	-	
			1 消火剤	-	-	-	-	-	
			2 発泡剤(断熱材等)	-	5.0	0.50	-	-	
			3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して	-	-	0.30	-	-	-	3.2
			1 地域環境への配慮	0.3	2.8	0.33	-	-	2.8
			2.1 大気汚染防止	-	5.0	0.25	-	-	
			2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
			2.3 地域インフラへの負荷抑制	0.2	2.5	0.25	-	-	
			1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
			2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
			3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
			4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		物件は燃焼設備を使用していない。	0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
			3.1 騒音・振動・悪臭の防止	0.4	3.0	0.40	-	-	
			1 騒音	3.0	1.00	-	-	-	
			2 振動	-	-	-	-	-	
			3 悪臭	-	-	-	-	-	
			3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	0.4	3.0	0.40	-	-	
			1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-	
			2 砂塵の抑制	1.0	-	-	-	-	
			3 日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策している。	0.2	4.4	0.20	-	-	-	
			1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	-	
			2 基光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:38.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}$   
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用  
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)岡谷特殊鋼センター

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆☆を使用している。主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	2.5%≤ [昼光率]。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。
Q2 サービス性能	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置。 耐震クラスA。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化率38.70%
LR1 エネルギー	BPI <sub>m</sub> = 0.67。 BEI <sub>m</sub> = 0.69。
LR2 資源・マテリアル	ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して81%。
その他	特になし。